

第5回東南アジア岩盤工学セミナー（EIT-Japan-AIT Joint Seminar on Geo-Risk Engineering- Monitoring and Geo-Exploration -）開催報告

京都大学大学院経営管理研究部

大津 宏康

平成 18 年 9 月 27 日～28 日に、バンコクにおいて岩の力学委員会および京都大学大学院地球系専攻の共催事業である、第 5 回東南アジア岩盤工学セミナー（EIT-Japan-AIT Joint Seminar on Geo-Risk Engineering- Monitoring and Geo-Exploration -）を以下の要領で開催しました。

1) 講演会

【日 時】平成 18 年 9 月 27 日（水）9:00-17:00

【場 所】タイ王立工学会 EIT（Engineering Institute of Thailand）オフィス

2) フィールドトリップ

【日 時】平成 18 年 9 月 28 日（木）9:00-17:00

【場 所】Tha Dan Dam（タダン・ダム）- Nakhon Nayok（ナコンナヨック）

本セミナーは、地盤・岩盤工学に関連する技術の日本とタイとの交流を目的として、タイ王立工学会 EIT（Engineering Institute of Thailand）およびアジア工科大学 AIT（Asian Institute of Technology）をタイ側のカウンターパートとして開催し、2002 年より始めて今回で 5 回目を迎えます。本報告では、今回開催しました講演会の概要と、フィールドトリップで訪れたタダン・ダムの建設概要について紹介します。

本セミナーにおける講演会のメインテーマは、毎年変更してきました。具体的には、2002 年は「Rock Engineering」、2003 年は「Modern Computer Technology on Geotechnical Engineering」、2004 年は「Groundwater and Land Subsidence」、2005 年は「Geo-Risk Engineering」を各年のテーマとして開催してきました。そして、本年は「Monitoring and Geo-Exploration」をメインテーマとして開催し、総勢 65 名（日本側：40 名、タイ側：25 名）の参加者を得ました。

本年の講演会では、まず特別講演として芦田先生（京都大学大学院）と曾我先生（ケンブリッジ大学）から、それぞれ物理探査および計測に関する



写真-1 講演後記念品贈答（左芦田先生，右 Dr. Noppadol（AIT 代表））



写真-2 曾我先生（ケンブリッジ大）特別講演

る最新の技術について紹介がなされました(写真-1, 写真-2 参照).

その後, 日本およびタイの研究者・技術者より物理探査および地すべり Landslide に関する発表がなされ, 活発な質疑応答がなされました. また, オーラルプレゼンテーションに加えてポスターセッションも開催して, 昼食およびコーヒープレイクの際には, ポスターを前にして活発な質疑応答がなされました(写真-3 参照). 講演会については, 今回で5回目を迎えるため, タイにおいて定着してきたことが実感されました(写真-4 参照).

なお, 開会式で日本側代表として挨拶した大西先生(京都大学大学院)から, 数回に1回はタイから発表者を招いて日本でセミナーを開催することが提案されました. 両国間の地盤・岩盤工学に関連する技術交流を深める新たな企画を実現するよう今後とも努力したいと思います.

講演会に引き続き開催したフィールドトリップでは, Tha Dan Dam (以下タダン・ダムと標記する)を見学しました(写真-5 参照). タダン・ダムは, 王立灌漑省 RID (Royal Irrigation Department) にバンコクより東に 120km の地点のナコンナヨック (Nakhon Nayok) に建設された灌漑用ダムです. このダムは, 堤体高 90m・堤体幅 2.6km の RCC 工法で世界最大規模であることが特徴です. そして, このダムの設計・施工管理はフランスのコンサルタントが担当しましたが, その施工自体はタイのローカルカンパニーにより実施されたそうです. このような大規模岩盤構造物の建設により, タイにおける建設会社の技術が確実に向上していることが実感されると共に, 近年海外受注の増加を図りつつある日本の建設会社にとっても近い将来脅威となる可能性もあると感じました.

今回の第 5 回東南アジア岩盤工学セミナーの開催を終えて, 先に述べました日本でのセミナーの開催を含めて, 東南アジア地区との交流を継続して行きたいと考えております. また, この活動に関して, 今後とも皆様のご協力をお願いしたいと考えております.



写真-3 ポスターセッション



写真-4 講演会会場



写真-5 タダン・ダムのダム部および湛水池の遠景